

平成 26 年度

公益財団法人いわき市教育文化事業団決算書
(抜粋)

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

公益財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事 業 報 告 書 -----	1
・ 決 算 報 告 書 -----	12

事業報告書

目 次

	ページ
I 概 況	
1 総括事項 -----	3
II 業 務	
1 文化財部門（公1 埋蔵文化財の発掘調査事業）	
（1）文化財発掘調査 -----	4
（2）埋蔵文化財啓発活動 -----	4
2 施設部門（公2 教育文化施設の管理運営事業）	
（1）いわき市アンモナイトセンター -----	4
（2）いわき市考古資料館 -----	5
（3）いわき市立草野心平記念文学館及び草野心平生家 -----	6
（4）いわき市暮らしの伝承郷 -----	6
（5）いわき市生涯学習プラザ -----	7
（6）福島県いわき海浜自然の家 -----	8
3 管理部門（法人会計） -----	8
III 評議員会・理事会に関する事項	
1 評議員会 -----	10
2 理事会 -----	10
3 役員等に関する事項 -----	10
IV 職員に関する事項	
1 事務局 -----	11
2 施設 -----	11

I 概 況

1 総 括 事 項

平成26年度は、東日本大震災から4年目を迎え、復興の大きな流れの中で、本事業団の役目をしっかりと認識し、市・県民協働による事業を展開した。4月に公益財団法人へ移行し、理事会3回、評議員会2回を開催し、公正・公平で透明な事業運営に努めた。

復興の加速化が進み、いわゆる物的復興から心的復興へと変化しつつある中で、埋蔵文化財の発掘調査と教育文化、生涯学習施設の管理運営の2つの公益目的事業を中心として、本事業団の専門性を生かし、市・県民の心の支えになるよう職員一丸となって取り組んだ。

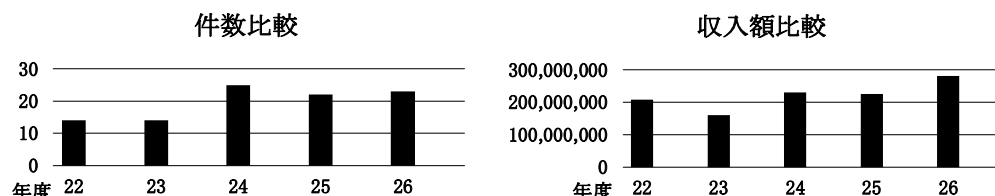
文化財部門においては、市内の震災復興関連の発掘調査事業が継続する中、復興公営住宅等にかかる調査事業等が目立った。また、事業量は前年度より1件多い23件の事業を受託し、収入額は、決算額対比で約5,400万円多い約28,100万円となった（上表）。

施設部門は、アンモナイトセンター・考古資料館・草野心平記念文学館及び生家・暮らしの伝承郷・生涯学習プラザ・海浜自然の家の7施設の指定管理業務を継続した。考古資料館、海浜自然の家は利用者数が前年度よりわずかに増加したが、アンモナイトセンターと海浜自然の家は、震災前の平成22年度の約半数ほどである。（下表）。また、次年度から生涯学習プラザの5年間と、新たに勿来勤労青少年ホームの3年間の指定管理者の指定を受けた。

このことから、平成25年度に引き続き、安定的な収入源の確保と経費節減により、約1,100万円の黒字決算となった。

○ 発掘調査事業契約件数と収入額の年度別比較（22～26年度）

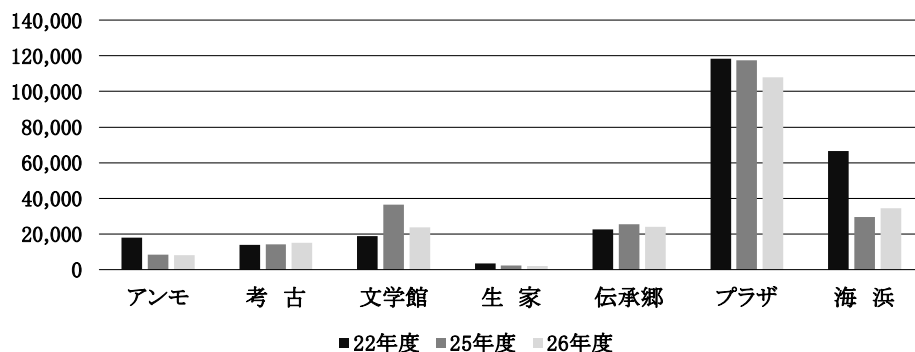
年度	22	23	24	25	26
契約件数 (単位：件)	14	14	25	22	23
収入額 (単位：円)	208,821,117	160,497,750	230,799,600	226,446,000	281,235,210



○ 施設年間利用者数比較（22・25・26年度）

	アンモ	考古	文学館	生家	伝承郷	プラザ	海浜
22年度	17,831	13,783	18,684	3,318	22,534	118,276	66,611
25年度	8,295	14,147	36,424	2,282	25,408	117,515	29,323
26年度	7,942	15,041	23,525	1,988	23,969	107,857	34,425

年間利用者数比較



II 業 務

1 文化財部門（公1 埋蔵文化財の発掘調査事業）

(1) 文化財発掘調査

平成26年度に受託した事業は23件であり、事業内訳は、いわき市内の発掘調査9件（遺物整理含む）、試掘調査3件、遺物整理・報告書作成11件である。うち9件は、前年度からの繰越事業である。また、うち2件は、市の復興交付金事業及び民間開発の事業で平成27年度へ繰越した。

発掘調査等における主な成果としては、墳形・規模と石室の様相が確認された平下荒川「五理内古墳」のほか、昭和23年に天冠埴輪が発見された「神谷作101号墳」でも墳形と規模が想定された。また、久之浜町「磐出館跡」から市内初見の奈良時代の横口付木炭窯6基が検出されたことなどが特筆される。

埋蔵文化財調査報告書を7冊、概報を1冊刊行した。

(2) 埋蔵文化財啓発活動

ア 現地説明会の開催

No.	実施月日	実施項目	内 容
1	平成26年5月25日(日)	磐出館跡	参加者80名。「文化財ニュースいわき」第73号を発行し配布した。
2	平成26年10月11日(土)	久世原館跡	参加者50名。「文化財ニュースいわき」第75号を発行し配布した。
3	平成27年2月21日(土)	泉町A遺跡	参加者100名。「文化財ニュースいわき」第76号を発行し配布した。

イ 企画展の共催

No.	実施月日	実施項目	内 容
1	平成26年9月17日(水) ～同 11月17日(月)	「平成25年度発掘速報展」	考古資料館との共催。「文化財ニュースいわき」第74号を発行し配布した。入館者1,900名。
	関連事業 平成26年10月18日(土)	「調査成果報告会」	発掘調査を担当した職員が調査成果について報告を行った。参加者は21名。

ウ 頒布図書

図書6冊子を増刷し市民、研究者等へ頒布した。内訳は、『薄磯貝塚』50冊、『磐出館跡』概報70冊、『久之浜条里跡』30冊、『専称寺境域ほか』60冊、『三反田B遺跡・三反田遺跡・薄磯貝塚』30冊、『薄磯大平遺跡』30冊。

2 施設部門（公2 教育文化施設の管理運営事業）

(1) いわき市アンモナイトセンター

平成26年度の入館者総数は、7,942名で昨年度比353名の減となった。東日本大震災における原発事故による風評の固定化が続き、体験発掘事業も含め来館者も横ばいとなっている。

また、自然探訪教室を再開し12回128名の参加を得ることができた。当センターの主要事業

である体験発掘については、露頭の整備が進んだこともあり、定員を決めた予約制を廃止し随時受付とした。

教育機関・団体を対象とした特別体験発掘が再開され、17団体666名の参加があった。平成26年度は市内及び県内の学校・団体での利用が主だった。体験向けの新たなプログラムとして昨年度から実施している本物の化石を埋め込んだ化石クリーニング体験キットについては、大変好評であることから、各種イベントや企画展での体験コーナー・出前講座等で活用した。

小中学校の夏・冬休み期間に合わせた各企画展は、夏休み企画展「「おいらの博物館II」」が2,219名で昨年度比307名の減、冬休み企画展「双葉層群と産出化石展」が261名で昨年度比146名の減であった。これは天候不順による夏休み期の体験発掘来館者の減が大きく影響している。

公開シンポジウム(化石講演会)は、平成16年度から当センターが立地する双葉層群(化石)への理解を目的として実施してきた。さらに同20年度からは、久之浜地区の「小中学校連携推進事業」として久之浜中学校を会場にして、地学や化石に関する教育課程がある小学6年生と中学1年生が出席して開催している。平成26年度は、いわき自然史研究会相談役の鈴木千里氏が「四倉史学館と化石の思い出」の演題で、四倉史学館の意義と化石にかけた情熱をわかりやすく講演された。

(2) いわき市考古資料館

平成26年度は、利用者総数15,041名と開館以来最多利用者数となった前年度の14,147名よりさらに894名の増となった。その大きな要因として、入館者数は13,269名とほぼ前年度並みであったが、出前講座などの館外利用者数が34回1,772名で前年度比12回836名と大幅増となったことがあげられる。

企画展は、通常企画展3回、ミニ企画展1回、市立美術館移動展1回を開催した。第1回企画展「近世いわきの藩展―湯長谷藩―」は、映画「超高速!!参勤交代」の上映と同時期に開催したこともあり、前年度同時期開催の企画展より1,325名多い6,512名が来館した。また、初めて近世をテーマとする企画展を開催したことにより、多くの歴史ファンに考古資料館に来館いただくとともに、館の存在を知っていただくことができた。

講座・講演会は、「自由研究に挑戦しよう」、「新しいいわきの考古学講座」全6回、「ボランティア養成講座」及び企画展に合わせた講座や講演会を含め7講座14回開催した。

体験学習会は、GW体験学習会など6回19日間開催し、前年度より238名増の1,317名が勾玉づくり、埴輪づくりなどを体験した。

団体入館者は、第1回企画展を見学する団体が多かったことから、件数は前年度比45件増の116件であったが、入館者数は首都圏からのバスツアーが前年度の延べ54台2,299名から今年度は延べ30台962名と大幅に減ったことから、前年度比1,167名減の3,237名であった。

緊急雇用創出基金事業として、いわき市石炭・化石館収蔵化石資料の整理・登録事業を実施した。3年にわたった事業の成果を市民に公開するため、いわき明星大学において展示会や講演会及び体験会などを開催した。

収蔵資料の調査や貸出及び鑑定・問い合わせなども当館の重要な業務であり、それぞれ対応した。また、8月には3名の学生を対象とした学芸員実習を実施した。

復興収蔵庫建設に伴う基礎工事をはじめとする関連工事も順調に行われた。

このほか、経年劣化が原因の雨漏りや電気関係の故障が頻発しており、所管課と協議の上、可能なものについては随時修理・修繕を行い施設の維持・管理に努めた。また、接遇などの向上に努めるとともに、ホームページは事業案内及び経過報告などを随時更新掲載し、内容の充実に努めた。

(3) いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

いわき市立草野心平記念文学館

年間入館者は23,525名で、昨年比12,899名の減となり、年間開館日数は311日間だった。平成26年度は、春、夏、秋、冬と4つの企画展を開催した。

春の企画展「草野心平の詩 富士山編」は、昨年度の「草野心平の詩 恋愛編」に引き続き、心平の作品を新たな切り口で展覧することを目的に開催した。展示資料は7点を除き当館蔵であり、ご遺族から当館に寄贈された資料をはじめ、当館が所蔵する8万9千点余の資料をさまざまな切り口で構成し、それらの魅力を広く紹介することにもつながった。

夏の企画展「青山剛昌の世界展 デビュー作から名探偵コナンまで」は、夏休みの期間に合わせ、作品がテレビ放映中でもある漫画家の作品を取り上げたことで、青少年をはじめ幅広い世代に文学館を認知してもらう機会となった。紹介した作品の中には放映中のアニメーションもあり、それらの原画などを鑑賞するという非常に貴重な機会を提供できた。アンケートにも、夏休み中に来館した子どもたちが鑑賞後の素直な感動と感謝の意見を寄せたことから、幅広い利用者層ということのみならず、震災からの復興に向かう子どもたちを元気づけるきっかけともなった。

秋の企画展「米原万里展 ロシア語通訳から作家へ」では、ロシア語通訳として、特にソヴィエト連邦崩壊時の同時通訳者として活躍し、NHKをはじめとした情報番組などにも多数、出演。その後はエッセイストとして読売文学賞などの受賞歴を持つなど、認知度の高い文学者米原万里を紹介することで、市民をはじめ文学的なテーマに興味を持つ利用者のニーズに応じることができた。本展で展示した資料を常設で紹介している施設はないことから、本展が貴重な資料を鑑賞できるまたとない機会になり、米原万里が学んだ東京外国語大学の卒業生、関東地方からの来館者なども見られ、魅力ある事業開催の発信とともに、新たな利用者層の誘客にもつながった。

冬の企画展「所蔵品展 草野心平と高村光太郎 往復書簡にみる交友」では、文学者のみならず、芸術家など多岐にわたった草野心平の交友関係から、詩人で彫刻家でもあった高村光太郎との関わりを、二人の往復書簡から紹介した。

スポット展示は、「三野混沌」「草野心平と川内村」「猪狩満直」「吉野せい」「大正時代の平町と詩人たち」「草野天平」を開催し、作品を紹介した。

普及活動では、夜間開館時や週末を中心に演奏会などを開催し、文学や芸術にふれる場を提供した。あわせて、絵本を読み聞かせるおはなし会を開催し、子どもたちが絵本などに接することで、物語の楽しさに親しむきっかけになることを目指した。また、「文学館ふれあい祭」では、フリーマーケットや生け花体験、コンサートなどを実施し、企画展にあわせた親子で終日楽しめる催しを開催した。さらに小川町の団体と連携を図ったワークショップ、小川中学校吹奏楽部による演奏会、いわき市立美術館彫刻特別展示、アクアマリンふくしま移動水族館を実施するなど、文学館が立地する小川町住民、市内施設との連携を図った。

いわき市草野心平生家

平成26年度の入館者数は1,988名で、昨年比294名の減であった。年間開館日数は311日間だった。

小川小学校、小川中学校の児童、生徒が参加した「心平誕生日の市民朗読会」では、一般市民の朗読も交え、ふるさとの詩人を顕彰した。ワークショップ「カエルの折り紙をつくろう」では、生家ボランティアの会が講師となり、市民と交流した。

(4) いわき市暮らしの伝承郷

平成26年度の入園者数は、前年度比1,437名減の23,971名となった。市民展の開催数減

少が大きく影響しているものと思われる。その対策として、過去利用団体への市民展利用可能日の空き状況のお知らせの送付、また、介護施設向けの利用案内DVDの作成・送付を実施し、利用者数の拡大に努めたが前年度比6%減の結果となった。

伝承郷の中心的事業である景観復元・伝承・管理作業は、平成11年の開園以来、昔の暮らしぶりそのものの景観復元と伝承をコンセプトに実施してきたところである。今年度も畑作・里山作り・庭木の手入れ、家屋の日常的な清掃、囲炉裏火焚き・薪作りなど幅広い項目について実施した。その方法や扱う道具についても、展示の一環として位置付けの下、極力昔の方法・道具を取り入れながら実施した。

企画展は、第1回「いわきの昔野菜展Ⅱ」、第2回「いわきの近代医学の事始め展」、第3回「いわきの年中行事展 ー正月行事ー」、特別展は、映画「超高速!参勤交代」の公開に合わせ、「映画ポスター展Ⅱ」、東日本大震災被災避難者を中心とした和布細工工房ほのぼのとの共催により「和布細工展Ⅲ」の合計6回の展示会を開催した。また、これら企画展関連事業として、それぞれ展示解説会など開催した。

体験学習は、「民話の語り①～⑩」など、予約無しで気軽に参加できるものや、「ヤマブドウの携帯ケース」や「竹カゴ作り」など技術を要するもの、そして昔行われていた「あやとり」・「正月飾り作り」・「餅花作り」など、子供から大人までの幅広い年齢層を対象に企画し、通算28回を実施した。さらに学校や自治会などの要望による「竹馬教室」、昔遊びや古民家での「昔掃除」・「餅つき」などの特別体験学習や臨時体験学習も随時実施して好評を得た。また、いわきリエゾンオフィス企業組合との共催により、ユウガオを使った「かんぴょう作り体験」も実施した。

伝承郷講座は、「大衆文化と民俗」を5回の講座で実施した。

伝承郷行事では、「盆棚飾り」・「こと八日」・「農立て」・「正月飾り」など、年間通して2回の伝統行事を古式に則った再現展示により実施した。

伝統芸能公演は市内の伝統芸能「じゃんがら念仏踊り」・「三匹獅子」や南会津の「会津万歳」などの伝統芸能を実演し、その継承と伝承を図った。

小学生を対象とした「キッズ民話語り部教室」は、子ども語り部の養成講座であり、平成26年度で第21期を迎えた。対象の小学生に加え、過去の経験者(中～大学生)の参加も見られた。

市民の文化活動発表の場として定着した企画展示室のサークル・団体への貸出は、通算8回であり前述の通り昨年度の12回より減少した。

その他、ガイドボランティアなどを対象としたボランティア研修会の開催、サークル・団体による篠笛や琴・ハーモニカ演奏会、民俗・歴史に関するレファレンス事業や寄贈民具の鑑定・収集・登録なども実施した。

また、3年目となった緊急雇用創出事業「暮らしの伝承郷農村風景復元・伝承事業」を受託実施した。

(5) いわき市生涯学習プラザ

平成26年度は東日本大震災後の全面開館から3年目を経過し、利用者数は107,857人で、前年度に比べて9,658人の減となった。施設使用許可申請数は2,875件で114件の減となったが、このうち社会教育団体の申請件数は1,880件で115件の増であった。なお、社会教育団体の登録件数は66団体で3団体の増となった。

主催講座は、前年より1講座増やし27講座を実施した。また、ボランティア活用事業は、子育て支援ボランティアによる「紙しばい・絵本の読み聞かせ」「子どもと遊ぼう」、ITボランティアリーダーによる企画講座を毎月開催するなど、若年層から高齢者まで幅広い年齢層に対応した講座を提供した。さらに、サークルが一般市民を対象として企画したサークル企画講座は、「絵手紙」「楽しい朗読1～3」「コーラス体験」「和紙ちぎり

絵」「水墨画体験」「陶仏製作」「透明粘土で作るアクセサリー」を開催し、貴重な体験企画として好評を博した。

全市的な事業として広く市民に浸透している「いわきヒューマンカレッジ(市民大学)」は、353名の入学生を迎えて4学部(リベラル・アーツ学部、地域共生学部、環境再生学部、いわき学部)を開催した。また、10回目となる「生涯学習フェスティバル」を開催し、前年度より330人減の2,562人の入館者があった。地域住民・商店会等と連携しながら多くの市民へ交流の場を提供することができた。

いわきヒューマンカレッジ、プラザ主催講座や生涯学習フェスティバルの開催にあたっていわき市生涯学習支援ボランティアの会の運営支援をいただいた。

これらの事業展開にあたっては、ホームページや「広報いわき」のほかに、講座ごとの案内チラシを通して情報の発信や提供を行うとともに、利用者懇談会やアンケート調査でモニタリングを重ね、市民目線に立った効率的な管理運営に努めた。

(6) 福島県いわき海浜自然の家

平成26年度の利用状況は、500団体延べ34,428人を数え、震災前の平成22年度(546団体66,611人)に比して51%ほどであった。社会教育団体の利用は依然増えているが、学校教育団体の利用は、111団体延べ9,148人(平成22年度は342団体、延べ50,576人)と、団体数では平成22年度の3分の1で、延べ人数では昨年度を上回ったものの、平成22年度の数値にはまだまだ至っていない。

震災の影響により海浜活動が出来ない状態が続いていたが、平成25年度6月から砂の芸術や磯遊び等の海浜活動を一部再開し、平成26年度も同様の活動を実施しており、カヌーやいかだ乗りなど本所の中心的なプログラムは、未だ復活していない状況である。

野営場や炊飯施設は、年度当初に放射線除染作業を行い、様々な活動環境の整備を経て、震災以来ようやく、7月18日からロッジと合わせて供用開始となった。

企画事業は、春・秋のオープンデーなど施設の一般開放によって、本所の運営状況等を広く県民に周知するとともに、さまざまな企画事業をとおして本所への理解を深めることができた。さらに、閑散期の利用促進として、「森の音楽会」や「クラフトのつどい」などを実施し好評を博した。

これら各種事業においては、広報チラシ・ポスターの配付をはじめ、ホームページに事業案内及び報告等を随時掲載するなど、広く県民への周知を図った。

なお、所内の各種研修や報告会のほか、所外の様々な研修によって職員の資質向上に努め、県民に愛され親しまれる施設づくりに努めた。

3 管 理 部 門 (法人会計)

(1) 業務執行体制等について

平成26年4月、公益財団法人に移行し、これまで以上に公正・公平性を保ち、透明性を維持して各事業の適正な運営に努めた。

体制強化策の一つとして、9月1日付、正規職員を新たに7名雇用し、事業運営の充実を図った。一方、10月31日付をもって再雇用職員1名が退職した。

また、本事業団職員表彰の取扱要綱により、11月19日に永年(30年)勤続者8名の表彰を初めて行い、これまでの功績を称え、今後の活躍を改めて誓った。

(2) 情報開示について

これまで各施設のホームページをとおして、企画事業等の情報を発信してきたが、7月1日付、事業団本体のホームページを新たに開設し、主事業である埋蔵文化財の発掘調査事業、社会教育・生涯学習施設の管理運営事業等の計画や報告に加えて、財務諸表や定款などを公開し、これまで以上に運営の透明性を図った。

(3) 研修等について

業務及び自主研修のほかに、AED講習や接遇研修に参加して、より専門性の高いサービスと安心・安全を提供できる環境づくりに努めた。

また、いわき海浜自然の家を主会場に2泊3日(10月28日～30日)の初任者研修を実施した。基礎研修として「職場におけるコミュニケーションスキルの向上」や「事業団の諸規程」のほか、文化財の発掘調査や施設の事業運営、「公文書作成の基礎」について学んだ。さらに、専門研修として、時期決定の考古学的方法論について学ぶなど、初めての研修は有意義な結果となった。

(4) 啓発・広報等について

いわき市を代表するフタバサウルススズキイなどの化石群の一部について、たからものずかん「いわきの化石-脊椎動物編-」として5万部発行し、市内の小・中学校の児童・生徒をはじめ、教育文化施設や支所・公民館、市内の商業施設等に無料で配布した。また、県立いわき光洋高校の建設前に発見された貴重な化石「ナカヤマコウヨウクジラ」の化石展をいわき明星大学で開催し、講演会や親子体験学習会を同時に行った。

本事業団が有する専門的な知識を生かし、今回は古生物(化石)にスポットを当てて啓発事業を展開した。

Ⅲ 評議員会・理事会に関する事項

1 評議員会

	議案番号	件名	提出日	議決日
第1回	第1号	平成25年度決算の承認について	平成26年5月30日	平成26年5月30日
第2回	第1号	評議員の選任について	平成27年3月30日	平成27年3月30日

2 理事会

	議案番号	件名	提出日	議決日
第1回	第1号 第2号	平成25年度決算の承認について 平成26年度定時評議員会の招集について	平成26年5月15日	平成26年5月15日
第2回	第1号	公益財団法人いわき市教育文化事業団 給与等に関する規程及び公益財団法人 いわき市教育文化事業団定年退職者の 再雇用に関する規程の改正について	平成26年12月19日	平成26年12月19日
第3回	第1号 第2号 第3号	公益財団法人いわき市教育文化事業団 給与等に関する規程及び公益財団法人 いわき市教育文化事業団定年退職者の 再雇用に関する規程の改正について 平成27年度事業計画及び収支予算につ いて 平成26年度第2回評議員会の招集につ いて	平成27年3月23日	平成27年3月23日

3 役員等に関する事項

評議員 7名、理事 8名、監事 3名

区分	年月日	役職名・氏名	備考
辞任	平成27年3月31日	評議員 加藤和夫 評議員 石井和一 監事 近藤英雄	

IV 職員に関する事項

平成27年3月31日現在

1 事務局

括弧内数字：兼務職員数 単位：名

区分	事務局長 同相当職	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
事務局	1	3	—	—	—	—	—	4
企画管理係	—	1	—	1	1	—	3	6
調査第一係	—	—	1	1	3	1	—	6
調査第二係	—	—	2	—	—	—	17	19
計	1	4	3	2	4	1	20	35

2 施設

区分	館長 副館長	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
アンモナイト センター	1	—	1	—	—	1	1	4
考古資料館	(1)	(1)	(2)	—	(1)	—	5	5(5)
文学館	2	—	2	—	—	—	5	9
伝承郷	1	—	1	—	—	1	9	12
生涯学習 プラザ	1	1	1	—	2	—	6	11
いわき海浜 自然の家	1	1	1	1	3	2	6	15
計	6(1)	2(1)	6(2)	1	5(1)	4	32	56(5)

合計	7(1)	6(1)	9(2)	3	9(1)	5	52	91(5)
----	------	------	------	---	------	---	----	-------

決 算 報 告 書

目 次

	ページ
1 貸借対照表	14
2 正味財産増減計算書	15
3 財産目録	17

貸借対照表

平成27年3月31日現在

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	189,072,881	232,944,783	△43,871,902
未収金	31,614,487	23,442,050	8,172,437
前払金	41,730	0	41,730
未経過通信運搬費	5,080	5,080	0
未経過租税公課	2,600	1,400	1,200
製品	0	80,484	△80,484
流動資産合計	220,736,778	256,473,797	△35,737,019
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) その他固定資産			0
器具・備品	654,261	1,116,308	△462,047
電話加入権	449,904	449,904	0
投資有価証券	10,015,300	10,024,540	△9,240
その他固定資産合計	11,119,465	11,590,752	△471,287
固定資産合計	21,119,465	21,590,752	△471,287
資産合計	241,856,243	278,064,549	△36,208,306
II 負債の部			0
1 流動負債			0
未払金	76,065,213	67,917,484	8,147,729
未払消費税	14,338,400	4,614,467	9,723,933
未払法人税等	0	4,000,000	△4,000,000
前受金	13,847,960	75,837,150	△61,989,190
預り金	1,182,139	1,016,728	165,411
流動負債合計	105,433,712	153,385,829	△47,952,117
2 固定負債			0
固定負債合計	0	0	0
負債合計	105,433,712	153,385,829	△47,952,117
III 正味財産の部			0
1 指定正味財産			0
受取出捐金	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	0
2 一般正味財産			0
一般正味財産合計	126,422,531	114,678,720	11,743,811
正味財産合計	136,422,531	124,678,720	11,743,811
負債及び正味財産合計	241,856,243	278,064,549	△36,208,306

正味財産増減計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益 (A)	32,200		
基本財産受取利息	32,200		
②事業収益 (B)	691,933,897		
文化財調査受託料	281,235,210		
施設指定管理料	371,897,000		
施設事業受託料	33,383,587		
施設利用料	5,222,530		
出版物頒布料	195,570		
③受取負担金 (C)	0		
講師派遣料	0		
④受取寄附金 (D)	0		
寄附金	0		
⑤雑収益 (E)	1,496,229		
受取利息	26,006		
雑収益	1,470,223		
経常収益計 (F)	693,462,326		
(2) 経常費用			
①事業費 (G)	656,325,819		
給料手当	149,220,853		
賃金	155,527,377		
共済費	43,221,812		
報償費	5,018,368		
旅費	3,423,432		
消耗品費	19,100,233		
被服費	319,269		
燃料費	9,906,663		
食糧費	195,648		
印刷製本費	17,082,868		
光熱水費	30,414,017		
修繕費	12,777,848		
医薬材料費	36,497		
通信運搬費	6,644,833		
広告料	336,342		
手数料	1,267,270		
保険料	955,654		
委託料	71,910,690		
使用料及び賃借料	51,873,067		
工事請負費	44,635,320		
原材料費	895,569		
負担金	292,450		
公租公課	27,316,965		
消耗什器備品費	3,490,727		
減価償却費	462,047		

科 目	当年度	前年度	増減
②管理費 (H)	25,392,696		
報酬	249,000		
給料手当	10,659,954		
賃金	3,490,098		
共済費	3,043,456		
報償費	351,400		
旅費	330,283		
交際費	45,000		
消耗品費	563,054		
被服費	0		
燃料費	32,809		
食糧費	24,084		
印刷製本費	992,520		
光熱水費	142,078		
修繕費	177,120		
通信運搬費	130,381		
広告料	0		
手数料	411,779		
保険料	48,430		
委託料	977,777		
使用料及び賃借料	1,066,615		
原材料費	150,000		
負担金	182,494		
補償費	11,811		
公租公課	1,840,485		
消耗什器備品費	472,068		
経常費用計 (I)	681,718,515		
当期経常増減額 (J)	11,743,811		
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計 (K)	0		
(2) 経常外費用			
経常外費用計 (L)	0		
当期経常外増減額 (M)	0		
当期一般正味財産増減額 (N)	11,743,811		
一般正味財産期首残高 (O)	114,678,720		
一般正味財産期末残高 (P)	126,422,531		
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	32,200		
一般正味財産への振替額	△32,200		
当期指定正味財産増減額 (Q)	0		
指定正味財産期首残高 (R)	10,000,000		
指定正味財産期末残高 (S)	10,000,000		
III 正味財産期末残高	136,422,531		

財 産 目 録

平成27年 3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金		手許保管	206,000
郵便振替		運転資金	947,173
預金	普通預金	運転資金	
	東邦銀行湯本支店		149,569,441
	東邦銀行湯本支店		0
	東邦銀行湯本支店		0
	いわき信用組合湯本支店		4,383,087
	いわき信用組合湯本支店		3,799,732
	大東銀行湯本支店		83,443
	福島銀行湯本支店		84,005
	定期預金	運転資金	
	東邦銀行湯本支店		10,000,000
	大東銀行湯本支店		10,000,000
	福島銀行湯本支店		10,000,000
未収金	いわき市、福島県等	文化財調査受託料未収等	31,614,487
前払金	建設業労災防止協会	研究員関係技能講習受講料	41,730
未経過通信運搬費	切手	在庫	5,080
未経過租税公課	印紙	在庫	2,600
流動資産合計			220,736,778
(固定資産)			
基本財産			
投資有価証券	第97回利付国債 5年	市出捐金	10,000,000
その他固定資産			
器具・備品	カメラ等	公1事業目的保有財産	654,261
電話加入権		公1事業目的保有財産	449,904
投資有価証券	第106回利付国債 5年	運転資金運用	10,015,300
固定資産合計			21,119,465
資産合計			241,856,243
(流動負債)			
未払金	人件費	日々雇用職員3月分賃金等	12,255,977
	物件費	業者に対する未払額	63,809,236
前受金	いわき市、民間業者	文化財調査受託料前受額	13,847,960
預り金	所得税、市県民税、社会保険料等		1,182,139
未払消費税	いわき税務署	26年度消費税	14,338,400
流動負債合計			105,433,712
固定負債合計			0
負債合計			105,433,712
正味財産			136,422,531